常総市自転車活用推進計画　計画アウトライン（たたき台）

資料－5

計画策定の背景

・いばらき自転車活用推進計画による県内気運の高まり
・コンパクトなまちづくりを支える移動手段
・県内でも高い自動車依存度
・水害復興に伴い整備された鬼怒川サイクリングロードは市の自転車幹線となりえる
・道の駅等常総ＩＣ周辺交流拠点が２０２３年３月開業予定

常総市の課題

・交流拠点開設するも「観光地域づくり」（受入れ体制、仕組み作り）は、これからの取組み
・鬼怒川サイクリングロードのみが先行し、街への接続のハード、誘導サイン等セミハード・ソフトの遅れ
・公共交通への依存度は低く自動車利用率が高い

計画推進期間　:推進期間2021～2030年（10ヵ年）、先行期間（優先推進期間）2021～2023年（交流拠点開設の年度まで）

自転車活用を通じた市の将来目指すべき姿

・自転車ネットワークを交流人口拡大に活用することにより、地域が活性化する

・自転車ネットワークを新しいモビリティ環境として多くの市民が生活の中で活用する

自転車活用推進に関する目標

≪いばらき自転車活用推進計画の目標4項目ベースに独自目標を加える≫　（目標項目は同じ、取り組みは常総市に必要な取り組み）

1．サイクルツーリズムの推進における地域の活性化

・常総IC周辺に交流拠点（道の駅を含む）整備を進め、交流人口拡大を市の重点施策に掲げていること、また、新設の鬼怒川サイクリングロードを活用した地域資源の結び付けを想定していること等から、目標となる。

2．自転車交通の役割拡大に向けた自転車通行空間の整備

・新設の鬼怒川サイクリングロードは、常総市の自転車幹線となりえるが、その幹線を活かす周辺道路と相まったネットワーク計画により、計画的・現実的な自転車走行空間の整備を推進する必要がある。
・自転車活用の促進と連携したまちづくりの取組みが進められている（かわまちづくり「河川サイクリングロード」、拠点整備検討等）

3．自転車事故のない安心で安全な社会の実現

・従来からの交通安全教育にとどまらない柔軟で効果的な安全教育実施について、学校や企業の他、様々な地域主体との連携を図って取り組む。
・常総市の幹線となりえる鬼怒川サイクリングロードは「自転車歩行者専用道路」となるため、独自のルールとマナーにより歩行者とサイクリストの軋轢を避けるなどの検討が必要

4．自転車を活用した県民の健康増進

・市民の健康増進に自転車を活用することは、市の「健康増進計画」とも一致し、また、鬼怒川サイクリングロードは石下と水海道の二つの中心市街地を結び、市民生活上も自転車が移動手段として活用しやすいポテンシャルを持つことから目標となる

≪独自目標≫1．防災先進都市を目指す常総市としての自転車活用

・災害時、移動手段としての利用により選択の幅を広げ、積極的・確実な避難を促すなど、自転車活用を検討する

≪独自目標≫2．SDGs（持続可能な開発目標）と協調した情報発信

既に実施している取り組みや想定される取り組みを見てもらいます。

≪目標に対する施策例≫

目標1．サイクルツーリズムの推進における地域の活性化
施策（1）鬼怒川サイクリングロード等を活かしたサイクルツーリズムの推進

≪措置≫サイクリングに訪れた人を街に誘う取組み

鬼怒川サイクリングロードに訪れた人を街に誘い、交流によって地域が活性化する環境づくりのため、飲食店、立寄り処等にサイクルスタンドを設置していく。これは「サイクリストを歓迎する街」というイメージ作りにも繋がると考える。

サイクリングロードマップにスタンド設置店を記載

スタンドは河川工事業者からの寄贈品

サイクルスタンド設置場所

1	野村醸造	本石下2052
2	パンデカーザ	豊岡町乙1475-1
3	山中酒造店	新石下187
4	お煎餅 いおり庵	水海道宝町2722-1
5	元三大師 安楽寺	大輪町1
6	水海道R2カフェ	水海道宝町2736-2
7	常総やきそば	新石下1007
8	ゆたかや	本石下3054-5
9	一言主神社	大塚戸町875
10	あすなろの里	大塚戸町310
11	つくばビューホテル	本石下3790
12	コロッケや フルヤ	豊岡町乙1660
13	石塚椹店	原宿86-1
14	弘経寺	豊岡町甲1
15	くろさわ 西原店	本石下3050
16	春子屋	本石下3054
17	かうひいや 珈和	水海道森下町3838

団子屋に設置したスタンド

弘継寺に設置したスタンド

≪措置≫地域と連携したサイクルツーリズム

地域の様々な主体との連携は、サイクルツーリズムの推進上重要であり、特にモビリティ間の連携は広域ツーリズムへの発展性もあるため重要と考えられます。

地域交通連携
「関東鉄道」のサイクルトレイン

・「分解して輪行袋で携帯する」という通常の自転車持込み手間が省ける手軽さが特徴。
・鬼怒川に沿って走る関東鉄道は、初心者のロングライドに安心感を与えたり、ツーリズムの選択肢を広げる等、有効活用が想定されます。

≪目標に対する施策例≫

目標1．サイクルツーリズムの推進における地域の活性化
施策（1）鬼怒川サイクリングロード等を活かしたサイクルツーリズムの推進

≪措置≫情報発信、広報の取組み

「鬼怒川サイクルフェスタ2019」
新設の鬼怒川サイクリングロードの供用が始まったことを広く発信するため、オープニングイベントを実施した。事前・事後ともに新聞で報道してもらい、発信効果が大きかった。

H27水害時の破堤地点でリスタートセレモニー実施

競輪選手会等、多様な組織と連携

鬼怒川堤防
自転車快走

常総 サイクリング道開通祝う

鬼怒川堤防を自転車で走る「鬼怒川サイクルフェスタ」が23日、常総市で開かれた。鬼怒川サイクリングロードの同市開通を祝うイベントで、近隣から自転車愛好家250人が参加し、心地よい汗を流した。

鬼怒川サイクリングロードは2015年9月の関東・東北豪雨後に始まった鬼怒川堤防整備の一環で、将来的には常総市と筑西市間をつなぐ、堤防上の幅6.5㍍の管理用道路を活用しており、7月から常総市区間で通行が可能となったことを受け、今イベントが企画された。

参加者は午前10時20分に同市新石下の地域交流センター駐車場を出発。鬼怒川と小貝川の両堤防を結ぶ40㌔の周回コースと、関東鉄道を利用する片道10㌔のファミリーコースを各自で楽しんだ。

途中、同市三坂町の堤防上でセレモニーがあり、神達岳志市長や流域自治体の市長、国土交通省の関係者がテープカットし、開通を祝った。アテネ五輪の自転車競技で銀メダルを獲得した長塚智広さんも参加し、イベントを盛り上げた。

参加者の1人で、常総市から片道20㌔の自転車通学をしている下館工業高1年の佐藤悠大さんは、「道が広くて走りやすかった。トップでゴールというおまけも付いてうれしい」と笑顔。守谷サイクル協会代表の佐々木裕信さん（68）は「青い空、流れる雲、そして筑波山。最色が最高だった。鬼怒川サイクリングロードは上流までもっと延びるので、将来が楽しみ」と話した。（今橋嘉正）

鬼怒川サイクリングロードを走るイベント参加者＝常総市三坂町

台風17号、57人重軽傷

スムーズな誘導 おもてなしの要

▲8月下旬から9日間の日程で開かれた「あけのひまわりフェスティバル」。好天に恵まれ、大勢の人でにぎわった。ただ駐車場は誘導が慣れていないのか、渋滞し、迷っているドライバーを多く見掛けた。結局、農道など狭い道にも長い列を作って車が止められていた。

▲事情を知る地元の人なら

教員募集
国語・化学
●採用人数／若干名
●採用職種／常勤、非常勤講師
履歴書、教員免許状（写し）

プロモーションビデオ（PV）作成（HP公開）
継続的・効果的な情報発信のため、PVを作成した。今後も情報発信はブラッシュアップしていくとともに、効果的な広報を検討して行く。

市役所HPのトップページのバナーを活用

ドローンを使って撮影

≪目標に対する施策例≫

目標2. 自転車交通の役割拡大に向けた自転車通行空間の整備

施策（1）自転車ネットワーク路線の計画的整備

※交流拠点が開業する2023年までに先行整備する優先路線の考え方を整理しておく

≪措置≫先行する鬼怒川サイクリングロードの安全利用のための整備

サイクリングロードと一般道の隣接部に防護柵設置

サイクリングロードと一般道の交差点部の安全対策は工夫が必要（写真：つくば霞ケ浦りんりんロード）

≪措置≫鬼怒川サイクリングロードと接続する周辺道路との接続部の整備（ハード・セミハード）

一般道と堤防を接続する坂路造成例

サイクリングロードから大生郷工業団地まで500mの好アクセス例

誘導サイン例
（つくば霞ケ浦りんりんロード）

≪措置≫危険箇所の改善（優先箇所から）

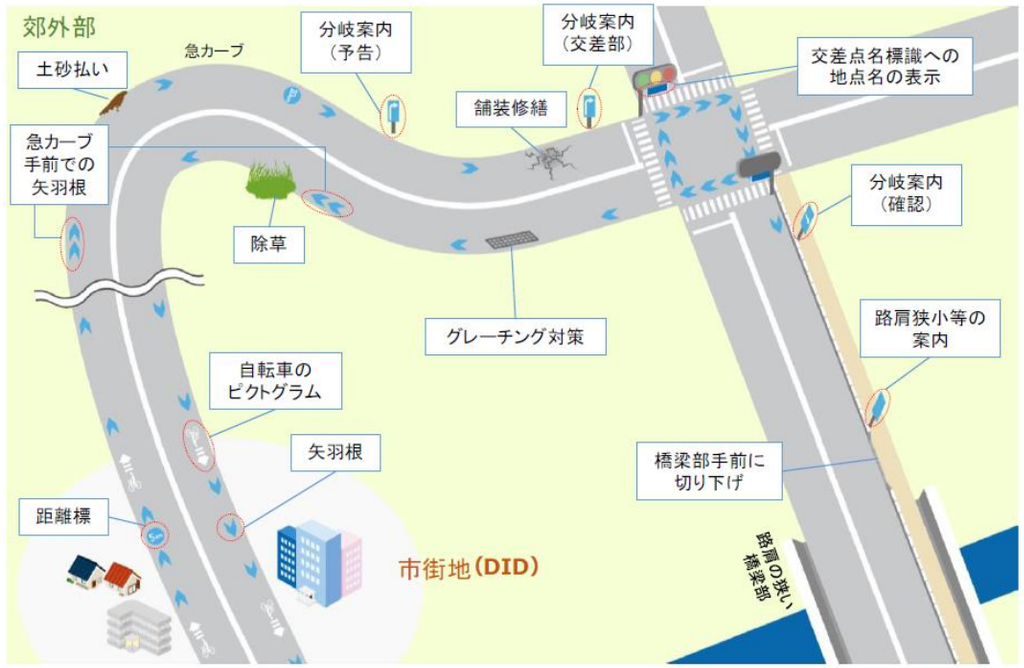


図 9.11 自転車ネットワークの整備イメージ

改善必要箇所（イメージ）

外側線外側のスペースが狭い

複合的要因により狭い

橋梁側道が狭いための規制
（ただし両側に側道がある）

≪目標に対する施策例≫

目標3. 自転車事故のない安心で安全な社会の実現
施策（1）一般道におけるルール・マナーの呼びかけ
施策（2）サイクリングロードにおける独自マナーの呼びかけ

≪措置≫自転車利用 5則の普及

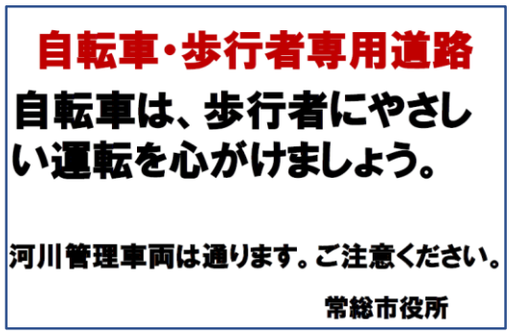
一般道でのルール・マナーの呼びかけでは、従来から活用されている「自転車安全利用5則」を用いた呼びかけを行う。

サイクリングロードマップの紙面を活用した自転車安全利用5則の発信。今後も様々なツールを活用して発信に努めていく。

≪措置≫サイクリングロードにおけるルール・マナーの検討

自転車歩行者専用道路となっている鬼怒川サイクリングロードでは、一般道とは異なる独自のルールとマナーが必要となる。

自転車が減速する車止めに設置



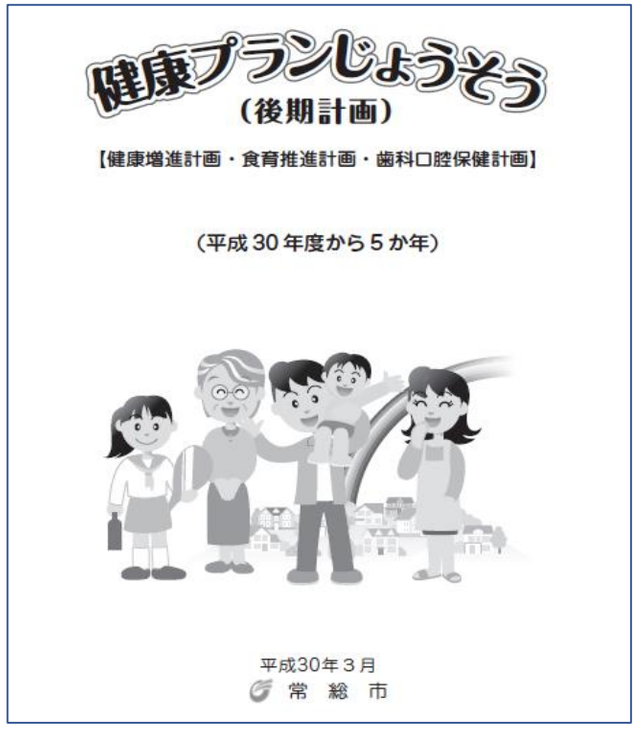
サイクリストに呼びかけを行うことで、地域住民に安心感を与えることも出来る。

対面通行を意識することで、自転車・歩行者の接触事故を減らすことを意図した試行的呼びかけ

≪目標に対する施策例≫

目標4. 自転車を活用した市民の健康増進
施策（1）日常の中での自動車から自転車への切り替え啓発
施策（2）意識して運動を取り入れる啓発活動

≪措置≫市民の健康増進を担う計画との連携



「身体活動・運動の推進」の節より抜粋

【行動目標】
1. 日常生活の中で 意識してあと10分歩こう。
2. 週2回 1回30分以上の汗ばむ程度の運動をしよう。
3. 気軽に運動を始めるきっかけをみつけよう。

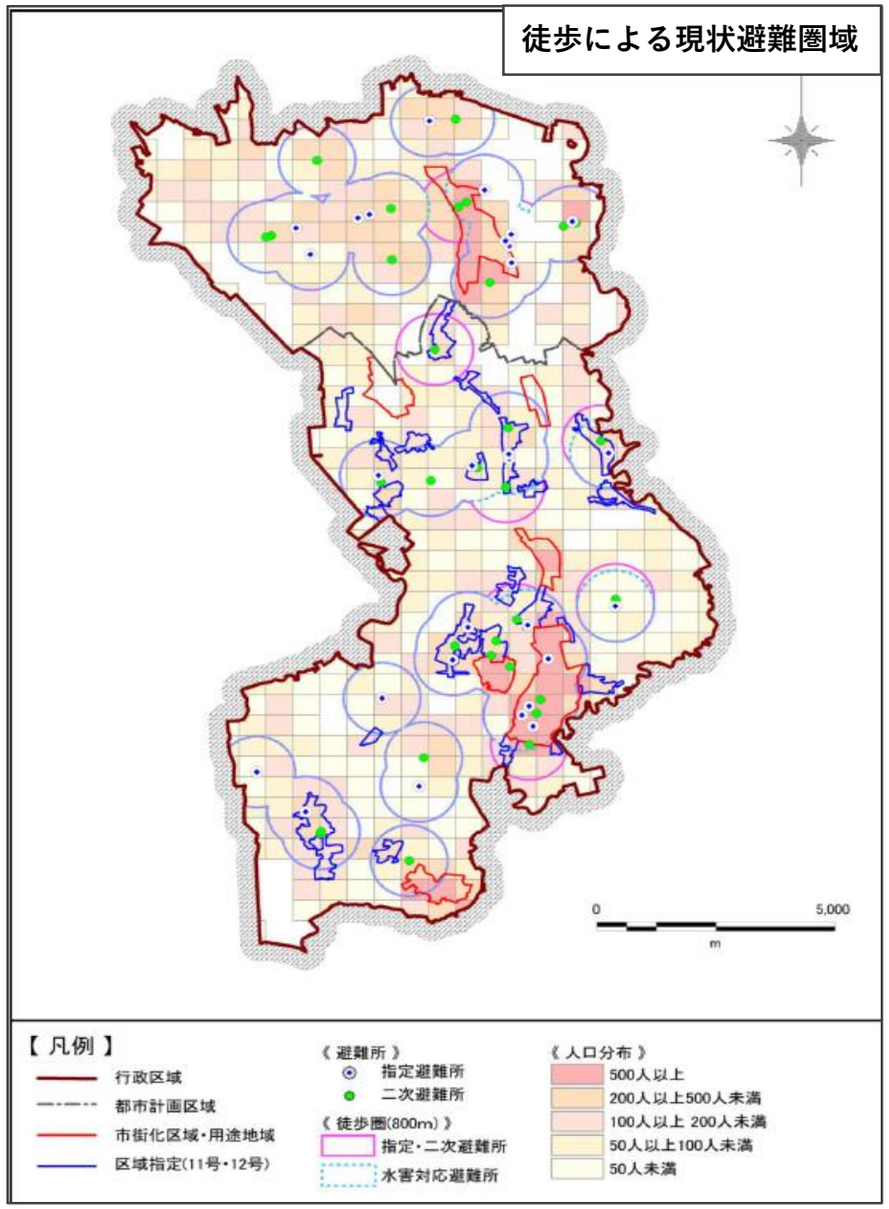
【事業者の役割】
■**自動車を使わず、自転車などを利用する取り組みを推進しましょう。**
■階段の利用など業務中に出来る運動を啓発しましょう。
■レクリエーションなどの運動を取り入ましょう。

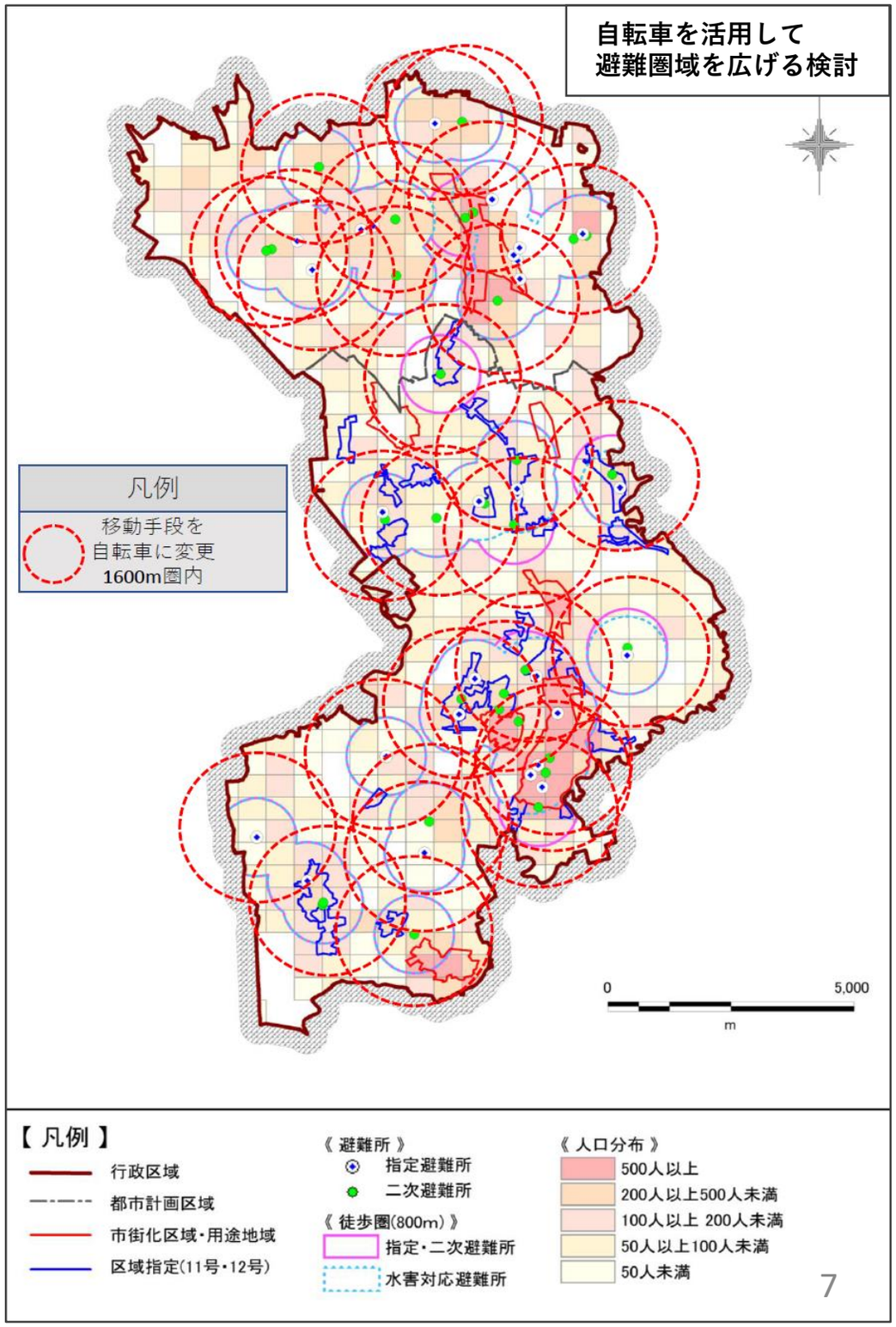
≪目標に対する施策例≫

≪独自目標≫1. 防災先進都市を目指す常総市として災害時の自転車活用を検討

≪検討例≫
避難所の徒歩圏でのカバーエリアを自転車活用によって広げる検討

防災活用の観点で自転車利用を検討する。
検討例は、避難時に自転車を活用することで、現況避難所配置でのカバー率を徒歩圏よりも広げることが出来る。





≪目標に対する施策例≫

≪独自目標≫2. SDGs（持続可能な開発目標）と協調した情報発信

※ SDGs（持続可能な開発目標）は、世界的に未来社会の目標として認識されてきているものの、政策としてのどのように扱っていくかということは、不明確な現状もあると考えます。しかし、基礎自治体としての役割は情報発信と試行を伴った「市民と共に考えること」ではないでしょうか。
このスタンスで、SDGsに照らし合わせた場合の、自転車活用推進計画の市としての取組みを提案します。

持続可能な開発目標

特に関連性が高い目標

3. すべての人々に健康と福祉を

7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

11. 住み続けられるまちづくりを

13. 気候変動に具体的な対策を

≪措置≫ゼロエミッションの取組み・健康増進への取組み

茨城県内においても常総市は、自動車依存度が高い。
車⇒自転車への転換は簡単なことではないが、通勤や日常生活の中で少しづつでも、自転車への転換を進めていく。
※「始めてみませんか」というアピールの取組み